

議事概要	
会議の名称	令和5年度第1回長久手市子ども・子育て会議
開催日時	令和5年6月5日（月）午後3時から午後4時25分まで
開催場所	長久手市保健センター3階会議室
出席者氏名 （敬称略）	<p>【委員】 会 長 石橋尚子 委 員 見田喜久夫 委 員 波田厚志 委 員 川本さつき 委 員 原口浩美（代理出席 米井ちさと） 委 員 樋口ひろみ 委 員 水野和幸 委 員 鍋島大慶 委 員 伊藤勇氣 委 員 榑野千鶴 委 員 駒越正美</p> <p>【事務局】 子ども部長 山端剛史 子ども部次長兼子ども未来課長 飯島淳 子ども未来課課長補佐兼児童係長 柴田浩善 子ども未来課課長補佐兼保育係長 水野真紀子 子ども未来課児童係主任 志津茉友子 子ども家庭課長 出口史朗 子ども家庭課課長補佐兼家庭係長 鈴木晶子 子ども家庭課課長補佐兼療育支援係長 榑本芳樹 健康推進課長 遠藤佳子 健康推進課課長補佐 諸戸洋子 健康推進課母子保健係長 今村知美</p>
欠席者 （敬称略）	委員 上田和世 委員 粕谷庸介 委員 片野直之
傍聴者人数	1人
会議の公開・非公開	公開
審議の概要	1 あいさつ 2 「長久手市子ども・子育て会議」の役割について 3 会長の選出及び職務代理者の指名 4 議題 (1) 令和4年度の実施結果及び令和5年度の実施状況について (2) 令和5年度の実施事業と次期事業計画策定スケジュール（案）について (3) 作業部会の進捗状況について 5 その他

	コロナ5類移行後の状況と子どもの生活の変化について
問合せ先	長久手市役所子ども部子ども未来課 電話0561-56-0616 内線288
議事録	
会長	あいさつ 議題(1) 令和4年度の実施結果及び令和5年度の実施状況について事務局による資料説明
委員	事業評価について、各担当課が自己評価で行っているのか。ほとんどが「◎」、一部「○」、ひとつ「△」の評価がありました。
事務局	事業評価は、資料の右上に書いてあるとおり、計画通りに実施されている場合は「◎」で、概ね計画通りだが一部未実施の場合は「○」で、大幅に計画から遅れている場合は、「△」と基本的には自己評価で行っております。
委員	資料では、ほとんどが「◎」、一部「○」、「△」がひとつあります。「○」については足りない部分を引き続き令和5年度に実施していくとして、「△」について、計画である以上実施させたい意向があると思いますが、今後どのようにお考えなのかお聞かせ願えればと思います。担当の方をお願いします。
事務局	継続事業の「認定こども園への移行の案内」ですが、国からも通知があり、市も働きかけをしており、市内の3つの幼稚園に昨年度話をしました。意向がない場合、無理に移行することもできず、昨年度の段階では、移行はありませんでした。理由としては、今、幼稚園として独自の色んなプログラムを事業展開しているので、認定こども園という形になった場合、色々な制約等が生じる可能性があります。現時点では、幼稚園としては、独自のプログラムを実施していきたいという意向がありましたが、変更の可能性もありますので、ご案内は引き続き行う予定です。
委員	事務局が言われたとおり、毎年、市から話はいただいています。その際に、園長と話し合った結果、今のところ意向はありません。その理由は、1度認定こども園にすると、変更することが難しく、私の知識で合っているかわかりませんが、保育士・教室・受け入れ人数の問題があります。現在は、自分たちで決め、3歳児からしか受け入れをしていません。認定こども園に移行した場合、今後1・2歳児の受け入れを考えていくと、やはり教室や保育支援の面を全て変えなければいけないことから、現在、踏み切れず、

	認定子ども園に移行する気はありません。
委員	私も幼稚園の園長やっていたので、実情がよくわかります。それで、今回の場合、事業としてはご案内をされれば、十分に事業評価を「△」ではなく、「今回はこういう形でご案内しました。」という状況で充分ではないのでしょうか。移行しなければ、「△」のままというのは、評価として、厳しいのではないのでしょうか。何かやらないとダメということではないはずで、それぞれの独自性を生かしながら、評価そのものが、「△」でなくともいいと思うのですが、いかがでしょうか。
事務局	ご意見を参考にさせていただきます、適宜訂正させていただきます。
委員	放課後子ども教室ですが、現在、市内の全小学校で実施しているのですか。
事務局	放課後子ども教室は、全小学校6校のうち、長久手小学校と市が洞小学校の2校が実施できていません。北、南、東、西小学校においては、実施しています。今回の一体型の件についても、将来的に実施していない小学校を実施できるように進めていきたいと考えております。
委員	空き教室がない場合、実施できないと思っているのですが。
事務局	その通りです。長久手小学校においては、本当に空き教室がないということで、市が洞小学校については、児童数がそもそも多い関係でなかなか難しいと学校から伺っております。
委員	先程の事業評価の仕方ですが、「◎」と「○」が事業の実施状況について、文章的に違いが見られないので、何が達成されてないのか読み取りにくいと感じました。資料を拝見すると、「○」の評価は、概ね計画通りだが、一部未実施である場合は、その一部について一行でも記載していただくと、次の5年に実施していくこと、強化することが見えやすく理解しやすいと思います。
事務局	申し訳ありませんでした。ご指摘ありがとうございます。表現につきまして、再度、見直していきます。
	議題(2) 令和5年度の実施事業と次期事業計画策定スケジュール（案） について 事務局による資料説明
委員	令和5年度に児童数の推計、保育料のニーズ、需要との算定などのアンケート

	<p>ート調査の実施ですが、アンケートの内容は行政で作成するという ことですか。</p>
事務局	<p>ニーズ調査や量の見込みは、平成26年度頃、国から示されて ます。基本的に、時点修正していく形式で、同じような質問 をするのが、この量の見込みの調査の基本となっています。 これまでどおり踏襲して行い、新たに形式を変えるような ことは、現時点では考えてません。</p>
委員	<p>経年的に行い、その変化をみるということですか。</p>
事務局	<p>量の見込みについては、経年的に変化をみていくと考 えています。子ども大綱について、おそらく大幅に変わら ないのではないかと県を通じて確認をしています。ただ、 子ども大綱は、計画の概要でみる限り、家庭内の事情や 貧困等の対策について、新たに加えていくような計画に なるのではと思っています。</p> <p>議題(3) 作業部会の進捗状況について 事務局による資料説明</p> <p>特に質問なし</p> <p>その他 コロナ5類移行後の状況と子どもの生活の変化について</p>
委員	<p>学校は、マスクの着用は、現状1ヶ月経って8割は着用 しています。スポーツやキャンプ・修学旅行では、マスク を外している生徒が多かったです。自身が一番変化した と感じるのは、精神的な負担が減りました。子供も教員 も同じだと思います。コロナの時は、宿泊行事も延期か 中止か、事業実施ができることとなったことが一番大き いのかなと思います。また、最近、市内の小中学校で インフルエンザに感染しているのが気になります。素人 判断ですが、マスクの着脱の影響なのかなとは思って います。</p>
委員	<p>今の年少で入園した子達は、生まれてすぐに多分コロ ナ禍が始まった子達で、生活の中で、変わったことは、 まだ少し見えてこないところがあります。ただ、集団 に対しての関わり方に慣れることが遅いと感じていま す。コロナ禍の3年間があるので、焦ってはいけないと 話し合っています。コロナ禍では、ずっと1人でいた 子や集団の場が極めて少なかったため、その影響が 出ていると思います。3年かかったことなので、5・6 年はこのような状況が続き、私たちが焦っても、子 供たちには仕方がないことなので、流れに合った保 育をしていくことを話しています。</p>

委員	<p>コロナ禍の影響で、家族との距離が縮まりまして、家族、本人の時代に今少し拍車をかけた面があるのではないかと感じております。家族以外での関わりを取り戻すということについては、コロナ5類移行となったことで簡単に取り戻せるものと聞いています。社協として、関わりある組織、団体のためにできることをサポートしていく必要があると感じております。また、福祉的な観点から、生活の厳しさなどから、家庭の中で不安がある場合など、子供に与える影響が大きいと考えられますので、生活支援についても、引き続き、力を入れていきたいと考えております。</p>
委員	<p>若者として、これから子供を持てる社会になるにはどうしたらいいか考えています。少子化の話になってこの会議から趣旨がずれるかもしれませんが、学歴や非正規雇用の人でも結婚して子どもを持つことができる社会となればいいと考えています。</p>
委員	<p>地域で子育て支援的な事業を行っています。5類移行になり、外出する人となかなか家から出られない方が二極化しているように感じています。</p>
委員	<p>コロナワクチンにおいて、高齢者と基礎疾患を優先して、子供のワクチン接種が、後回しでほとんどなかったというような状況を聞いて、本当にそれでいいのかと課題として考えています。少子化の問題が一番大きく、今後未来を担う子供たちのために、少子化対策につなげるようなことを考えなければいけないと思います。</p>
委員	<p>私たち団体は、子育ては家庭の中ではとても難しいことを様々な場面で感じており、様々な人たちの中で関わり合い、子供を育てていこうという思いがあり、立ち上がりました。子育て家庭は、小さいお子さんを連れて公園に行くのも、勇気がいることで大変だったと思います。5類に移行し、前の生活が取り戻されつつありますが、変化はまだわかりません。個人的には、大分意識も変わったかなと思います。</p>
委員	<p>コロナ禍のメリットでみると、IT機器を使い人と関わるのが広まったことです。保健所では医療的ケア児、人工呼吸器や医療ケアを受けながら、自宅で療養しているお子さんと関わるがあります。そういう方々のピアサポートの集いをIT機器を使い関わるのが少しずつ広まり、家から出られない子供も人と関わる機会ができたメリットがあると思います。</p>
委員	<p>市主任児童委員として、コロナ禍では色んな活動が制約され、最近では制約がなくなりましたので、訪問や活動を始めていますので、これからと思っています。</p>

委員	病院は、職員はマスク着用という形になっております。患者についても、皆さんマスクをされてるかなという状況です。あまり大きく変わったとの実感はないかと思えます。
委員	大学は、随分変わり、オンデマンドで授業を受け、学会もオンライン開催で人と会うことが減りました。今身につけた技術や技能をうまく変えながら、ハイブリッドの形でやっていくのが、これからの時代と思っています。若者が将来に希望が持てない、こどもが77万人しか生まれない社会になっておりますので、この会議が何らかの形で少しでも役に立てれば幸いです。それでは、今日、これまでの進捗状況と来年度の事業計画についてご説明を受けましたので、意見については、反映して頂くようお願いします。
事務局	本日の会議で出た委員の皆様の見解については、今後の市の施策の参考にさせていただきます。